

## 銀賞

きれいな水の大切さ

牛島 響晴

八女市立矢部小学校

わたしは、九月十二日にちく後市にある矢部川じよう化センターに行きました。そして、どうやって下水に水をきれいにし、矢部川にもどしているのかを調べてきました。

じよう化センターを見学して、きたない水がきれいになるまでに、たくさんのかいや、び生物や、働く人のおかげできれいになっていることが分かりました。

最初のお話の時に、家庭や工場などから下水に流す水を見せてもらいました。茶色くにごっていて、くさくて、「この水が本当にきれいになるのかな。」と思いました。

きたない水がきれいになるまでのお話を聞いた後、センターの中を見学しました。やはり最初は、さつき見たよごれた水がたくさんありました。ここでは、よごれた水をゆっくりと流して、小さなゴミやどろをはずめるそうです。とても流れがゆっくりだったのでびっくりしました。

次に見た所では、水がいきおいよく、ぶくぶくとあわだっていました。ここでは、よごれた水に、び生物の入った活せいおでいをまぜて、よごれをしずめやすくして、水をきれいにします。「家庭で使ったきたなくなつた水のよごれを、び生物が食べてくれてるんだな。」と思いました。上から見ていると見えなけれど、お話を聞いたときに、写真で見たいろいろな形のたくさんび生物が働いてくれ

ているおかげで、きれいな水になっていると知って、「すごい仕組みだな」と思いました。

下水の水がきれいになって、川に流すのに、二十八時間もかかるとお話を聞いて、本当にびっくりしました。けれど「自然にいる生き物の力をかりて、薬をあまり使わずに水をきれいにしているから、この時間は大切な時間なんだ。」と思いました。

毎日、わたしたちは、当たり前のようにきれいな水を、歯みがきやお風呂、皿洗いなどで使っています。でも、こんなに時間をかけて、わたしたちの使った水をきれいにしているのと同じように使った。使う水はなるべく大切にして、よごれをそのまま流さないようにしたり、流す水をへらすようにしたりして生活したいです。本を読んだら、米をといた水を家の植物の水やりに使うと、とぎしるを流さず、植物にもえいよくなるのでやってみます。また、お母さんが、せんたくをお風呂の水を使ってしているので、水を大切にしていることが分かりました。

じよう化センターで働いている人たちが二十八時間しっかり仕事をしてくださっていることをわすれず、わたしたちのふるさとを流れる矢部川の水をよごさないように気をつけていきたいです。